

令和5年度 第2回国分寺市環境審議会議事要約

日 時 : 令和5年8月8日(火) 午後3時30分～午後5時
会 場 : 市役所 第1庁舎 第1・第2委員会室

○会議次第

1. 開会
2. 議事
(1) (仮称)国分寺市地球温暖化防止行動計画(市域版)及び第五次国分寺市地球温暖化防止行動計画(市役所版)について
3. 事務連絡
4. 閉会

出席委員 : 中西由美子会長, 大野政智副会長, 大友美輪委員, 益子美賀委員, 和田淳委員,
竹内大悟委員, 野澤淳史委員, 六車貴美子委員, 荒井雄一委員, 卷田清委員,
伊藤皓子委員, 三浦貞夫委員

出席委員 : 12人

欠席委員 : 0人

傍聴者 : 0人

事務局 : まちづくり部まちづくり計画課4人(部長, 課長, 係長1人, 担当2人)

配布資料

- 資料1 市民提案・意見の整理
- 資料2 施策体系を考える視点の整理
- 資料3 施策体系(案)
- 資料4 温室効果ガス排出削減ポテンシャル及び再エネ導入見込量について
- 参考資料1 施策体系(案)についてのご意見
- 参考資料2 市民ワークショップの実施について
- 参考資料3 省エネ対策による温室効果ガス削減ポテンシャルの試算(部門別)
- 参考資料4 電力の排出係数低減による温室効果ガス削減ポテンシャルの試算
- 参考資料5 26市における削減目標
- 参考資料6 再エネ導入促進に係る民間事業者の提供サービス及び他市施策例
- 参考資料7 用語解説

令和5年度第1回国分寺市環境審議会議事要約

令和4年度環境報告書(会議終了後に配布)

1. 開会

- まちづくり部長あいさつ

まちづくり部長よりあいさつを行った。

- 委員紹介

事務局より第10期環境審議会委員の紹介を行い、各委員より自己紹介を行った。

- 事務局の紹介

事務局より事務局の紹介を行った。

- 会長・副会長の選出

会長に中西由美子委員、副会長に大野政智委員が選出された。

- 会長・副会長あいさつ

中西会長、大野副会長よりあいさつを行った。

2. 議事

- 配布資料の確認

事務局より配布資料の確認を行った。

- （仮称）国分寺市地球温暖化防止行動計画（市域版）及び第五次国分寺市地球温暖化防止行動計画（市役所版）における施策体系、削減見込量及び2030年度削減目標について

事務局より資料1・2・3・参考資料1を説明

中西会長：施策体系と削減量ポテンシャルの関係も含めて議論を行いたいため、まずは資料1～3までで質問を受け付ける。

私から1つ質問があるが、施策体系（案）において、「新」と記載されているものといないものの違いは何か。何に対して新なのか。

事務局：本市においてこれまで実施していない取組に新と記載している。ただし、視点①の市民・事業者の取組については、市の取組ではないため「新」の記載はしていない。

事務局より資料4・参考資料3・4・5・6を説明

中西会長：前回の環境審議会では、施策体系（案）に対して国分寺らしさが不足しているとの指摘があり、市民ワークショップでも国分寺らしさが重要といった意見が出ている。今回の施策体系（案）では、国分寺らしさに関連する施策は視点②の「国分寺らしさ・国分寺のポテンシャル（可能性・発展性）を活かす」で整理されており、視点①は「オール国分寺で取り組む」ということで、各主体の役割が分かるような構成としている。この点について意見はあるか。

また、適応策については、温暖化対策防止とは観点が異なり、地球温暖化は避けられな

いと的前提のもと、気候変動へ適応するための施策が整理されている。

六車委員：資料4では野心的ケースと堅実ケースの2通りは示されているが、資料3の中で、施策の目玉として、堅実ケースではこの施策に取り組む、それに加えて野心的ケースではどういった取組を行うといった点が分かりづらいため、説明いただきたい。

事務局：堅実ケースと野心的ケースで実施する取組はまだ整理できていない状況だが、この2通りの試算は再エネ導入ポテンシャルの把握を目的としており、施策体系において再エネ関連の施策は、市民・事業者の「再エネ導入の推進」、市の「再エネ導入促進」、「エネルギーの地産地消と再エネ利用の拡大」が該当する。野心的ケースを目標とする場合は、再エネ導入量を多く見込むことや追加的施策を検討する必要があるとも考えている。

中西会長：資料3の施策体系において、再エネ導入と記載のある施策については、堅実ケースと野心的ケースが2通りの想定があるということか。野心的ケースと堅実ケースの違いは、取り組む人の違いということか。

事務局：市民アンケート結果から、再エネ導入に関して、堅実ケースでは既に導入意欲が高い市民・事業者の割合を見込み、野心的ケースについては、そこまで再エネ導入の意欲が高まっていない（安価になれば購入したいと考えている割合等）市民・事業者も導入することを見込んでいる。

中西会長：野心的ケースの方が、より多くの人に取り組んでもらうといったイメージか。

事務局：そのとおりである。

六車委員：施策の方向（案）から取組例が示されているが、それぞれの削減効果がどの程度あるのか。現時点で削減効果が大きい取組や、取り組みやすいが削減効果は少ないといった検討は行っているのか。施策体系には全て同列で取組が並んでいるが、削減効果や取り組みやすさなどで重みは異なるのではないか。

事務局：資料4の3頁目の「施策体系（案）別省エネ対策による削減ポテンシャル試算結果」の一覧表において、取組による削減効果を整理している。国の地球温暖化対策計画に基づいて削減ポテンシャルを試算した結果ではあるが、削減効果が高い施策は、住宅や建物の省エネ化といったハード対策となっている。削減目標の達成にはハード対策が必要になるが、ハード対策の実現につなげていくためには、その前提として市民・事業者の意識の変容が必要と考えている。

六車委員：市民や事業者の意識変革が必要とのことだが、まずは市の意識改革が重要ではないか。施策体系で取組例が示されているが、国分寺市らしい施策が分からない。例えば自転車のシェアサイクルが挙げられているが、本当に国分寺市に合った施策かどうかということはこれから検討していくのか。

中西会長：現段階で示されている資料は、国分寺市の考えというよりも、市民の声からキーワードを抽出して施策体系として並べている段階だろう。

六車委員：現状は施策や取組を並べただけであるため、市がやりたい取組が何かを聞きたい。

益子委員：住まいの省エネ化が削減ポテンシャルは高いとのことだが、市民としてはお金がかかるためすぐに取り組むのは難しいように感じた。お金はかかるが削減効果が高いもの、削減効果は少ないがすぐに取り組めるものが明確になっていると分かりやすいのではないかと感じた。

六車委員：施策を進めていくときに、お金がかかって個人ではできないのであれば支援が必要とな

る。支援の部分が施策体系からは見えてこないが、市は応援する気があるのか。市民や事業者の意識が低いというわけではなく、お金がないからできないという人を後押しする決意表明がなければ、せっかく計画を作っても絵にかいた餅になってしまうのではないか。

中西会長：現時点では施策体系として整理した段階であるため、計画の根幹の部分がないという指摘だと理解した。今後計画策定を進める中で、対応していけるか。

事務局：後押しに当たる部分として、施策体系に「市民の取組支援」と「事業者の取組支援」を位置付けている。また、「市役所の率先行動」として、市役所版計画を改定中であり、最終的には市域版計画にも落とし込んでいく予定である。

やりたくてもできないというご意見は、市民ワークショップや市民・事業所アンケートでも把握しており、市として認識している。本日お示しした施策体系は、取組の羅列ではあるが、市として市民・事業者を支援していくこと、また市役所とが一事業者として、どこの事業者よりも率先して取り組んでいくことを記載させていただいている。ただし、予算の関係で、市としてもすぐにできることとできないことはある。そのため、今後の計画策定を通じて、ご指摘いただいた点は分かりやすく記載していきたいが、現時点でこの施策を5年以内に実施するといった記載は難しいという点はご了承いただきたい。

中西会長：いずれ何らかのかたちで示していただきたいが、現時点ではWS等の意見をまとめている状況で、それを踏まえての議論だと認識した。

大友委員：国分寺市では、家庭部門の排出量が多く、家庭における責任の割合がとても大きいということに気付いた。国分寺市は住宅が多いが、例えば、窓にすだれをかける、ゴーヤカーテンを作る、家庭の生ごみを公民館に持って行って堆肥化する、1つの部屋に家族が集まって過ごすなど、1つ1つは小さな取組だとしても、全部の家庭で実践すればまとまった効果があるのではないか。国分寺市に住んで15年ほどになるが、近所の木が減って虫が減っているといった変化も感じている。マンション住民でもベランダで木を1本育てるなど、少ないお金で簡単にできることを全員で実践する形でもよいのではないか。

中西会長：視点①オール国分寺で取り組むという部分で、環境問題は1人1人の取組が重要であり、取組の実践を働きかけるような計画にする必要がある。また、実践のための普及啓発を市も後押しし、意識改革する必要があるだろう。

竹内委員：削減ポテンシャルは国の地球温暖化対策計画における削減見込量に基づき、国分寺市の寄与分を算出しているが、今回の試算結果で得た数値をさらに押し上げていくのは今後の検討の部分だろう。一般的に環境問題において、意識変容は簡単だが行動変容は難しいと言われている。その点を工夫することで、国分寺らしさ出てくるのではないかと思う。また、野心的という表現は面白いと感じたが、2050年に一気にゼロというのは難しいので、2050年に温室効果ガス排出量実質ゼロに向けた具体的な道筋があるとよいのではないか。第6次エネルギー基本計画では、6割の住宅に太陽光発電を導入することを見込んでおり、今回の国分寺市の導入見込は6割よりは低い値としている。他市ではもう少し高い導入割合で試算している場合もあるため、根拠が示せるものは導入割合を高く見込んでもよいのではないか。その点、次回以降示してもらえるとありがたい。

中西会長：次回以降で他市との比較ももう少し検討した結果をもって審議ができれば良いと思う

竹内委員：参考資料6に施策の事例紹介があるが、PPAなどの再エネ導入促進の仕組みなど、計画

に制度の紹介を盛り込むことで分かりやすくなるのではないか。計画を作成するための材料は揃っているように思う。

六車委員：事例は集めただけではなく、国分寺に合っている事例はこれだということまで検討できるとよい。

大野副会長：資料3と資料4の関係性が分かりづらいように感じた。数字の根拠は削減ポテンシャルを試算して大きな目標があることは分かるが、市民が何を取り組めば目標につながるのかという部分が分かりづらい。計画では、市民が何に取り組めばいいのかが伝わるようなメッセージが必要ではないか。試算を細かく積み上げていくことは難しいと思うが、ざっくりとでも示せばいいと思う。市民ワークショップでは色々な意見が出たが、短時間での意見交換だったため限界はある。市民の意見も踏まえて、市として知恵を絞りつつやるべきことをリストアップしていただけるとよい。

伊藤委員：市民の行動変容という議論に関して、国分寺市は市民の排出量を減らすということが重要だと感じている。行動変容という点で、気が付いたら減っていた、という活動ができるのが理想かと思う。そのためにも、市のPRが大切で、公民館で堆肥を作っているといった、小さな取組の普及啓発も効果があるのではないかと感じた。

三浦委員：市民の行動変容に関して、東京都でも生物多様性地域戦略の策定時に議論の中で、どう人は変わるか、どう行動できるかが大切なのではないか、ということだった。例えば、ザリガニを釣ったら放さないでといったことが看板には書かれているが、なぜかということ子どもたちが理解することで、行動が変わっていくと思う。環境教育というと幅広くなってしまいが、どうすれば子どもたちが変わるかという視点で取り組んでいくことは重要ではないか。子どもが考えて取り組むことで親世代も変わっていくといった視点も重要かと思う。

中西会長：ご指摘の点が計画の根幹に相当する部分だろう。計画が他人事として捉えられてしまわないように次回では計画の見せ方を検討いただきたい。

和田委員：先程、六車委員から国分寺らしさについて指摘があったが、事務局は市民意見を踏まえた行政計画として計画を作成している。そこに国分寺らしさといった $+ \alpha$ を加えるのは、自分も含めた審議会委員の役割ではないかと思う。環境審議会には知見がある方々が集まっているので、そういった意見を述べる必要があると感じた。

巻田委員：今回施策体系に記載されている取組は、国レベルでみんなが考えていかなければいけないことだが、計画の目玉として国分寺らしい取組もあればよいと思う。例えば、こくベジでは、PR用のパンフレットを作成しており、出来の悪いトマトを飲食店で活用するといった取組も行っているが、飲食店から出た廃油を農家の耕運機に活用するといった農家も飲食店も応援できるような取組ができると面白いのではないか。国分寺ならではの取組があると面白いと思う。

中西会長：国分寺市ならではの具体的な取組について、計画に盛り込まれると市民にとって分かりやすい計画になるだろう。

荒井委員：事業者の立場として、設備の更新による削減効果が高いことは分かるが、費用面から難しい部分があるのが正直なところである。もう少しお金のかからないところから積み重ねができるとよい。温暖化対策はどうしてもお金が課題になってしまうが、お金だけではないところも視点としてあるとよい。

野澤委員：脱炭素社会を実現するためには、らしさというのはなく、今回の施策体系に示されている取組に集約されていく。その中でどう国分寺らしさを出すかだろう。

どの時間軸なのかが分からず、今の行動計画なのか、2030年目標なのか、2050年目標なのかが錯綜しているように思う。何をいつまでにどのような取組を行うといった部分を、時間軸で整理しておく必要があるのではないかと。特に2030年まではあつという間なので、ある程度見据えていく必要があるだろう。また、市民の取組は重要ではあるが、市民や消費者の環境的な責任が強く出ない方が良くと常々考えている。2030年や2050年には国分寺市民ではない人もいて、その人たちにもどう投げかけていくか考えたほうが良いと思う。

中西会長：市域版計画の第一の目標年度は2030年度。最終目標である2050年排出量実質ゼロを実現するための中間年に相当する。そのため、計画には2030年度の削減目標を記載する必要がある。本日は削減目標まで議論ができなかったが、全体的な計画の示し方やどう訴えかけるかといった部分の意見が出されたと思う。

六車委員：ワークショップも今回だけで終わりとせず、小学生、中学生、高校生、大学生と対象を変えて実施していただきたい。続けることで意識変容に繋がると思う。

また、以前の環境審議会において、野澤委員の大学の学生によるアンケート協力のお話が出ていたと記憶しているが、どのような状況か教えていただきたい。

事務局：環境基本計画の検討において、ワークショップで協力いただく方向で調整中である。

中西会長：本日の皆さんの意見を聞いていて、市域版計画が市民・事業者の皆さんが実際に行動に移すための計画にする必要があり、そのためには工夫が必要と認識した。次回の環境審議会は9月に開催を予定しているが、計画の実効性などについて環境審議会として提案していきたい。

3. 事務連絡

事務局：本日の議事要約は後日ご確認をお願いしたい。次回令和5年度第3回環境審議会は9月13日（水）午後3時半～5時にプレハブ会議室第3での開催を予定している。案内は後日郵送させていただく。

5. 閉会

中西会長：令和5年度第2回国分寺市環境審議会を閉会する。